

水道事業会計

令和5年度決算の概要について

収益的収支（3条予算） 【税抜き】

- ▶ 当該年度の企業の経営活動に伴い発生するすべての収益とそれに対応するすべての費用を計上します。

（単位：円）

	R5 決算額	R4 決算額	増減	R5 予算に対する執行率
水道事業収益	6,313,220,731	6,224,065,749	89,154,982	99.2%
営業収益	5,890,294,026	5,662,860,925	227,433,101	99.0%
営業外収益	422,785,029	559,854,148	△137,069,119	102.1%
特別利益	141,676	1,350,676	△1,209,000	1034.5%

	R5 決算額	R4 決算額	増減	R5 予算に対する執行率
水道事業費用	5,889,688,359	5,851,132,867	38,555,492	96.3%
営業費用	5,784,360,982	5,740,157,371	44,203,611	96.3%
営業外費用	100,461,253	110,370,531	△9,909,278	100.0%
特別損失	4,866,124	604,965	4,261,159	100.0%
純利益	423,532,372	372,932,882	50,599,490	—

収益的収支のポイント①

▶ 水道事業収益

事業収入の総額：63億1,322万731円（前年度比8,915万4,982円の増）

◎主な収入：給水収益 51億6,946万7,045円

その他の営業収益 7億158万5,981円

◎主な増減要因：その他営業収益の増加（前年度比1億3,390万7,216円の増）

⇒中高層マンションの建設が複数あったことにより水道利用加入金が増加したため。

▶ 水道事業費用

事業費用の総額：58億8,968万8,359円（前年度比3,855万5,492円の増）

◎主な費用：原水及び浄水費 28億6,587万5,908円

減価償却費 18億2,855万4,676円

◎主な増減要因：総係費の増加（前年度比5,636万2,598円の増）

⇒退職手当の支出が増加したこと等に伴い、退職給付引当金への繰入額が増加したため。

収益的収支のポイント②

▶ 収益的収支

純利益：4億2,353万2,372円（前年度比5,059万9,490円の増）

⇒ 主な要因は、水道利用加入金が増加したため。

▶ 1 m³当たりの供給単価と給水原価の比較

供給単価－給水原価：141.11円－149.25円＝8.14円の差損

供給単価：有収水量 1 m³当たりの水道料金

給水原価：有収水量 1 m³当たりにかかった費用

差損が出ている

⇒ 水道水を提供するための費用を水道料金でまかなえていない

資本的収支（4条予算） 【税込み】

- ▶ 市民に対するサービスの提供を維持するための諸施設の整備、更新など建設改良のための支出とその財源となる収入を計上します。

(単位：円)

	R5 決算額	R4 決算額	増減	R5 予算に対する執行率
資本的収入	1,021,147,119	860,985,630	160,161,489	94.8%
企業債	600,000,000	600,000,000	0	100.0%
国庫補助金	4,221,000	0	4,221,000	100.0%
他会計負担金	43,145,000	43,181,000	△36,000	99.2%
工事負担金	267,005,219	140,034,630	126,970,589	77.9%
水道施設加入金	106,407,400	77,524,700	28,882,700	123.1%
固定資産売却代金	368,500	245,300	123,200	36850.0%
	R5 決算額	R4 決算額	増減	R5 予算に対する執行率
資本的支出	3,466,024,127	3,521,986,740	△55,962,613	88.9%
建設改良費	2,792,324,317	2,814,379,999	△22,055,682	86.7%
企業債償還金	673,699,810	707,606,741	△33,906,931	100.0%
資本的収支の不足額	2,444,877,008	2,661,001,110	△216,124,102	—

資本的収支のポイント①

■ 資本的収支

資本的収入：10億2,114万7,119円（前年度比1億6,016万1,489円の増）

主な収入：企業債 6億円

主な増減要因⇒工事負担金の増加（前年度比1億2,697万589円の増）

資本的支出：34億6,602万4,127円（前年度比5,596万2,613円の減）

主な支出：配水管改良費 23億8,544万3,863円

主な増減要因⇒企業債償還金の減少（前年度比3,390万6,931円の減）

資本的収支の不足額：24億4,487万7,008円（前年度比2億1,612万4,102円の減）

※不足額の補填財源

・消費税資本的収支調整額

⇒4条収支における消費税の差額：2億7,223万5,634円

・損益勘定留保資金

⇒減価償却費など現金支出を伴わない3条費用等：18億7,264万1,374円

・減債積立金

⇒企業債償還に充てるため過去の利益を積み立てたもの：2億円

・建設改良積立金

⇒建設改良（工事など）に充てるため過去の利益を積み立てたもの：1億円

資本的収支のポイント②

▶ 工事の状況

布設工事：530m（配水補助管改良その他工事（大字下小坂）等）

改良工事：15,362m（重要施設配水管耐震化工事（大字の場ほか）等）

原水浄水施設維持及び改良事業（新宿浄水場配水池修繕及び場内管路耐震化工事等）

●当初予算では、布設工事を1,072m、改良工事を19,280m、原水浄水施設維持事業などを施工予定。

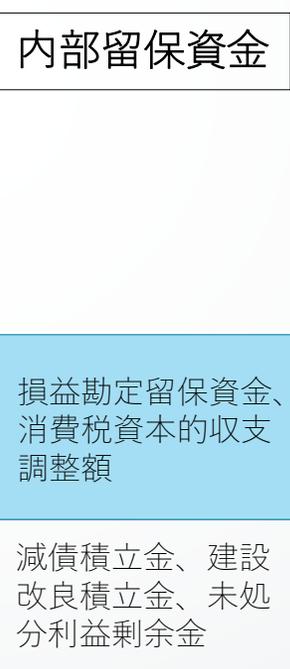
▶ 管路更新率（当該年度に更新した管路延長の割合）

1.04%（目標更新率は1.25%）

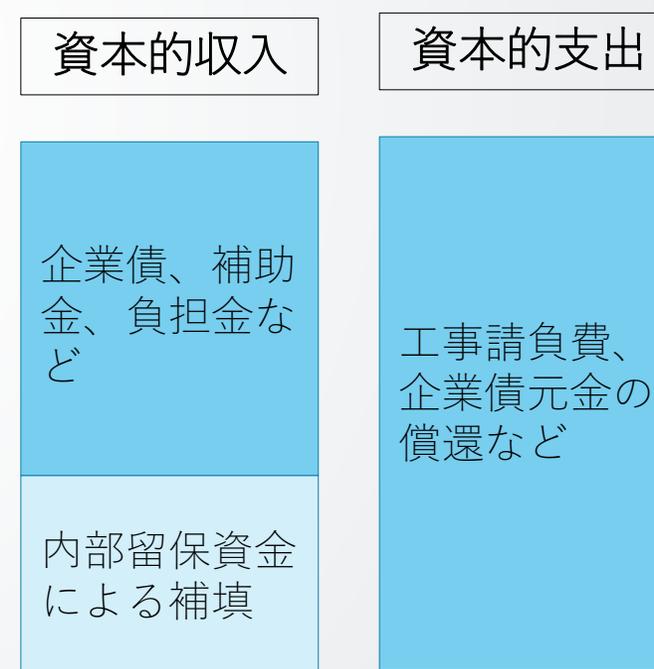
⇒今後も計画的に更新を進めていく必要があります。

収益的収支と資本的収支の関係 (3条予算と4条予算)

3条予算



4条予算



企業債残高と内部留保資金残高の推移



▶ 企業債残高（建設改良のための借金）

70億1千万円～71億5千万円の間で推移しています。



▶ 内部留保資金残高（建設改良のための資金）

33億4千万円～39億6千万円の間で推移しています。

令和5年度決算のまとめ

■ 収益的収支

- ・ 水道事業収益において水道利用加入金が増加したことにより当年度純利益が5,059万9,490円増加した。
- ・ 水道水の供給費用を水道料金でまかなえていない（供給単価と給水原価で差損）。
- ・ 近年の物価高騰などの影響を予測することが困難になっている。
- ・ 令和8年度から県水の単価改定が見込まれている。
- ・ これらを踏まえ、将来を見据えた適正な料金水準などについて検討していく。

■ 資本的収支

- ・ 企業債残高は大きく増減していない。
- ・ 内部留保資金の残高は減少傾向となっている。
- ・ 今後も、基幹管路の耐震化や老朽管更新などに伴い多くの資金が必要となる。